

【瀬谷区】令和6年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和6年6月11日(火) 14時55分～17時00分
場 所	瀬谷区役所5階 大会議室
出席者	<p>【座 長】花上喜代志議員</p> <p>【議 員： 2名】川口広議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区：34名】植木八千代区長、池上武史副区長、 木村洋福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 富永裕之土木事務所長、 細川直樹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業の執行計画 ・その他報告案件
発 言 の 要 旨	<p><令和6年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業の執行計画></p> <p>【川口議員】まずは開催まで3年を切り、間もなく1000日前イベントが行われるGREEN×EXPOについて質問したい。今年度から脱炭素・GREEN×EXPO推進局が新設されたが、局と区の連携状況はどうか。</p> <p>【植木区長】瀬谷区はGREEN×EXPOの開催区ということもあり、機構改革前の都市整備局のときから十分に連携していました。新しい局とも引き続き様々な説明を受けながら事業を進めているところであり、連携は十分にとれていると考えています。</p> <p>【川口議員】脱炭素とGREEN×EXPOの推進が一つになり、今までの都市整備局と比較して、横浜市としてGREEN×EXPOをより力強く進めていこうという意志の表れだと感じている。局が新設されて2か月だが、都市整備局のときよりも綿密な連携やコミュニケーションができているという印象はあるか。</p> <p>【植木区長】開催までの期間が短くなってきていることもあり、どのようにプロモーションを行っていくかという点なども、瀬谷区だけでなく、18区で局との連携が強まっていると感じています。6月6日に記者</p>

発表させていただいたとおり、開催 1000 日目のイベントを 18 区一斉に PR し、実施するという取組も提案されるなど、より市域全域で連携が進んでいるものと考えています。

【川口議員】今後もより局との連携を進めていくことになっていくのだろうと思う。先日、私と花上議員が所属する常任委員会にて、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局から各区に機運醸成のための予算が配当されるという話を聞いた。その予算の使途は決まっているのか。

【植木区長】おっしゃる通り、局からの配当予算をいただいています。今回ご説明しました区づくり推進費の予算とも合わせて、なるべく効果的に活用できるよう、現在、詳細を詰めているところです。

【川口議員】具体的なアイデアはこれからかと思うが、開催区である瀬谷区と旭区は、より機運醸成に力を入れていかなければならない。局から配当される予算については、他区と同額なのか。

【吉原区政推進課長】今年度、開催区である瀬谷区と旭区、また、周辺区である緑区には、他区よりも多くの予算が配当されています。

【川口議員】その情報を聞いて安心した一方で、その分責任も重くなるのではないかと思っている。今まで行ってきた取組については概ね理解しているが、今後は瀬谷区としてどのように機運醸成を進めていこうと思っているのか、どのようなイメージを持っているのか、改めて聞きたい。

【植木区長】おかげさまで、瀬谷区ではすでに多くの方が GREEN×EXPO の開催をご存じになっています。次の段階として、具体的なコンテンツや、何が楽しめるのかということをお伝えしていくことが大事と考えています。また、区外からいらっしゃる方に対して、瀬谷区が GREEN×EXPO に向けて花や緑を増やしていることや、街が花でいっぱいになっていることをお示していくことも重要です。区民の方に楽しみにしていただくことと、区外からいらした方にも瀬谷区の花や緑を楽しんでいただくこと、機運醸成にはその双方が必要だと考えています。

【川口議員】未だに GREEN×EXPO、園芸博覧会、花博など様々な呼ばれ方をしているが、そういったイベントが開催されることは知っている方が多くなってきた一方、A1 クラスの万国博覧会であることまで知っている方は、まだ多くないという感触。開催を迎える 1000 日後には、多くの方が世界中からやってくるが、この 2 年半という時間のなかで、瀬谷区で

できる機運醸成はある程度限られてくるのではないかと思う。私案だが、先日も区役所で行ったような花を植える活動は、多くの方に実践していただくことで景観形成にもつながるので、そのような活動に焦点を絞るという手法でも良いのではないか。今、区長から発言があったように、花や緑がきれいであるという印象を強く持ってもらうことができる、また、GREEN×EXPO以降も残すことができるイベントにも繋げられると思っている。

市では、参加者数が1500万人、そのうち有料来場者数を1000万人と想定している。日本人だけでなく外国人も含めて、1000万人が瀬谷区に来ることを考えた場合、区役所が担う役割をどのようにイメージしているか。

【植木区長】交通に関する課題や、来場者を会場までどのようにご案内するかなど、局と丁寧に話し合って分担していかなければならないと思っています。また、区内が会場となるイベントですので、区民の皆様にも参加いただきながら、おもてなしの取組も何か進めていきたいと考えています。一方で、生活空間に多くの方がいらっしゃることについて、ご心配される区民の方の対応も、区としては必要だと思いますので、局と役割分担しながら対応していきます。

【川口議員】先日、横浜国際園芸博覧会瀬谷区推進協議会の総会が開催され、GREEN×EXPOのPRののぼり旗のデザインを初めて見せていただいたが、誰がデザインしたものだったのか。

【吉原区政推進課長】デザイン案については、事務局である区政推進課が中心となって考えており、事前の幹事会でご意見をお聞きしたうえで、総会でお示しさせていただきました。

【植木区長】デザイン案に公式ロゴマークが入っていなかったという点をご心配いただいているのではないかと思います。時期的に、公式ロゴマークの使用に係る手続きが固まっていない状況ということもあり、まず区役所としては、地域でもよく知られてきている、園芸博バージョンの「せやまる」を使って案を作成しました。

【川口議員】公式ロゴマークの使い方もそうだが、緑豊かで花がきれいな瀬谷区の「瀬谷」という文字が、青色で書かれていたことにも違和感を覚えた。のぼりなどのデザインは、一瞬でどれほどインパクトを与えることができるかが非常に重要。「GREEN×EXPO」という名前を使ってい

る以上は、やはり緑色を中心に使うことを考えたデザインにすべきではないか。

【植木区長】のぼり旗のデザインの更新も含めて検討します。更新の際は、またご意見をいただければと思います。

【川口議員】本日配布された運営方針について。1ページ目に、目標として「職員満足度向上」と「区民満足度向上」がある。私も局の決算特別委員会等でも、職員の満足度の向上の大切さについて発言をしているところではあるが、資料の「職員満足度向上」は取組内容が4つあり、「区民満足度向上」は取組内容が3つしか書いていないところに違和感がある。なぜ「区民満足度向上」は4つ書けなかったのか。我々は市民、区民のために尽くすことが仕事だと考えているので、見た目の印象の重要性を考えると、「区民満足度向上」の取組としても4つ書いた方が良かったのではないか。

【植木区長】数のバランスまでチェックができていませんでした。来年度以降作成するときには、見た目の印象も大切にしていきたいと思えます。

【川口議員】運営方針の4ページ目の右下にGREEN×EXPOの開催について記載されており、場所として「旧上瀬谷通信施設」と書かれている。局と資料を作成する際には、「旧上瀬谷通信施設跡地」と表記することが多いが、正式な呼び方はあるのか。

【吉原区政推進課長】協会や市のホームページでは「旧上瀬谷通信施設」と記載されているので、基本的には表記を合わせたいと思っています。

【川口議員】瀬谷区から発信していく際は、今後も表記の統一を意識しながら広報物を作成してもらえると良い。

会議資料の10ページについて。「まちづくり調整」で、瀬谷駅周辺において、地域の活性化のための取組を検討するとあるが、具体的にどのような取組なのか改めてお尋ねしたい。

【吉原区政推進課長】一つ目としては、資料にも記載させていただきましたが、9月29日に瀬谷駅北口広場にて、第3回の「輝きフェスティバル」を開催する予定です。もう一つの取組としては、「輝きフェスティバル」の内容や、今後の広場の活用、運営の方法などについて、地元の連合町内会や近接事業者、住民の代表の方々と情報共有、意見交換を行っ

ています。地域の方がより自律的に広場の活用を図っていく姿を目指しています。

【川口議員】今日の Apple の講演で、iPhone15 から AI が搭載され、ChatGPT とも連携されることが発表された。ChatGPT があるのが当たり前のような時代になってきており、10 代、20 代前半の若い方々は、AI と寄り添いながら生きていく世代として、これから大人になっていくのだということを改めて感じている。たとえば、地域の活性化や GREEN×EXPO に向けた機運醸成に関して、瀬谷区のベテランの皆様と話したり向き合ったりする機会が多いと思うが、若い世代ともコミュニケーションをとり、彼らの影響力や伝播力を生かしていく必要があると感じている。区役所として、GREEN×EXPO に関連して若い世代とコミュニケーションをとる機会はあるか。

【植木区長】協議会等には、若い世代の方は入っていません。ただ、昨年度、瀬谷区ではモデル区として、デジタルプラットフォームによる意見募集なども行っています。若い世代やお子さんの意見を聞くことが今後重要になってくることも承知していますので、そのような経験を活かして、若い方も GREEN×EXPO を楽しみにできるように、仕組み作りも含めて検討していきたいと考えています。

【川口議員】若い方々が行きたいと思えるような GREEN×EXPO を、区から作っていくという姿勢も必要になると思う。脱炭素・GREEN×EXPO 推進局では、以前の都市整備局のときから、「ヨコハマ未来創造会議（仮称）」を立ち上げ、市長と若い世代が面と向かって、脱炭素に向けた話し合いをしている。そのような情報も入手しながら、GREEN×EXPO だけでなく、脱炭素や GX の取組についても、区からどのように発信したら良いのか、若い方々と話し合う時間を作っていく必要性があると思うので、ぜひ検討してほしい。

【植木区長】特に脱炭素や環境に関しては、今年度、小学生を対象としたワークショップなども計画しているので、参加者の方から意見を聞くなどの形も含めて、お子さんや若い世代から意見を聞き、取り入れていけるようにしていきたいと思います。

【川口議員】ワークショップも単発で終わるものではなく、ずっと続いていく、循環していくような流れを作っていける取組にしてほしい。

11 ページの「脱炭素社会の実現に向けた取組」について。区の単位で、

脱炭素という大きな目標を達成しようとしたときに、何ができるのかということについて、現時点でイメージがあれば教えてほしい。

【吉原区政推進課長】やはり区民にとって一番身近なのが区役所だと思っているので、子どもたちも含めて普及啓発を進め、子どもたち自身、さらにはお子さんがそれぞれのご家庭に持ち帰って、ご家族も含めて脱炭素の取組を実践していただけるように促していくことが重要だと考えています。取組としては、今回資料をお配りしましたパネルの展示や、8月に小学生を対象としたエコワークショップも予定しています。先生がおっしゃった通り、今後も継続して活動し、裾野を広げていけるように進めていくことが、区としてできることだと考えています。

【川口議員】脱炭素のワークショップのなかで GREEN×EXPO についても認知してもらい、さらに意見を伺う時間を用意することで、若い世代からアイデアを聞く、または若い方が主体的に GREEN×EXPO に関わってもらえるような機会になると思う。脱炭素について理解を深めるだけでなく、GREEN×EXPO にとっても効果的な取組となるよう重ねてお願いしたい。

次に、22 ページにこども食堂について記載があるが、現在、区ではどこがこども食堂と向き合っているのか。

【木村福祉保健センター長】こども食堂については、地域で孤立しがちな方への支援や、子育てのネットワークを強化するうえでも有益な取組であると思っています。現在は、瀬谷区社会福祉協議会が、こども食堂も含めた子どもたちの居場所のネットワークの事務局を担っています。区役所としては、福祉保健課を窓口として区社会福祉協議会と連携をとりつつ、こども家庭支援課や生活支援課などが関係してくる部分もありますので、区内で情報共有を図りながら支援を進めていきたいと思っています。

【川口議員】既に瀬谷区でこども食堂を実施している団体や、これから始めようとしている方がいるという話も聞くが、瀬谷区にはいくつのこども食堂があって、どれくらいのお子さんがいらっしゃっているのか、情報は共有されているか。

【木村福祉保健センター長】区社会福祉協議会が子どもの居場所のネットワークの会議を主催していますが、こども食堂以外にも、学習支援や自由に過ごせる居場所なども含めて 18 か所が参加しています。そのう

ち、把握している限りでは、こども食堂が8か所と聞いています。

【川口議員】こども食堂を始めたいが、どこに相談したら良いか分からないという声を聞くことがある。窓口としては、区社会福祉協議会ということで良いのか。

【木村福祉保健センター長】はい。そのうえで、福祉保健課を中心に関係各課で対応します。今、区社会福祉協議会で作成した資料もお配りしましたので、参考にさせていただければと思います。

【川口議員】資料は後ほど読ませていただく。

会議資料 24 ページに、障害がある方の GREEN×EXPO の機運醸成について記載がある。具体的な取組を教えてください。

【佐藤高齢・障害支援課長】障害福祉事務所の玄関付近などにプランターを置いて、花を飾るなどの機運醸成を進めていきたいと考えています。

【川口議員】その際には、ただプランターを置くだけでなく、先程話が出たのぼり旗なども活用するということでよろしいか。

【佐藤高齢・障害支援課長】事業所が建物の2階にあるなど、施設や見ばえの課題もありますが、のぼり旗を立てるなど工夫しながら、どのような形の PR が良いのか考えたいと思います。

【川口議員】障害がある方も GREEN×EXPO に主体的に参加することで、瀬谷区、横浜市は、世界のモデルとなる共生社会の街となっていく。そのようなアナウンスができるのも GREEN×EXPO の役割の一つ。プランターに花を植えていただくことで、障害がある方も、2年半前から GREEN×EXPO に参加しているのだという機運醸成を進めていくよう、お願いしたい。

次に、28 ページの「スポーツ振興事業」で、プロスポーツチームとの連携とあるが、改めて具体的な取組内容を教えてください。

【政木地域振興課長】区内で活動しているビーチサッカーチームの「レーヴェ横浜」と連携し、区民参加型のスポーツイベントを実施することで、区民の健康増進や、スポーツに親しむきっかけ作りをしたいと考えております。今年の3月にも、レーヴェ横浜、市のスポーツ協会、区のスポーツセンターなどの協力を得て「はだしで楽しくストレッチ・スポーツ体験」というイベントを実施しました。参加者にアンケートを実施したところ、お子さんからは、親子でビーチサッカーを体験するプログ

ラムが非常に楽しかったという声がありました。昨年、アラブ首長国連邦でビーチサッカーワールドカップが開かれ、レーヴェ横浜から日本代表が4名選出されています。イベントのなかでは、その選手の方のデモンストレーションを見る機会もあり、非常に良かったというご意見もいただいておりますので、今年度も同様の形でイベントを実施したいと考えているところです。

【川口議員】ビーチサッカーを見させていただいたが、非常に迫力があって興味深く、ビーチサッカー用の特殊なボールを使っているなど、様々な話を伺った。日本代表として重い責任を背負っている選手の方が、海のない瀬谷区にビーチサッカー場を持っている。健康増進という観点だけではなく、瀬谷区のなかに日本を背負っている選手がいらっしゃるといことも伝えていくことが、シビックプライドにもつながると思うが、その点はどうか。

【政木地域振興課長】スポーツ振興を目的として実施したイベントではありますが、区役所の業務である青少年育成とも絡めながら、子どもたちに夢を与えるという活動にもつなげていきたいと考えています。

【川口議員】最後にもう1点。33ページの瀬谷フェスティバルについて。旧上瀬谷通信施設で開催していた昨年までは、キッチンカーや出店が出ていたが、今年度は旧瀬谷西高校に場所を移して実施するという事で、スケール感が非常に小さくなってしまふことを懸念している。現時点で、物販などの予定はあるのか教えてほしい。

【政木地域振興課長】昨年までと比較して、会場はかなり狭くなります。現在、海軍道路沿いの校庭をメイン会場にすることを想定しています。可能な限り、昨年と同程度の出店数が確保できるよう、レイアウトを丁寧に検討したいと考えています。

【川口議員】駐車場についてはどのようなイメージを持っているか。

【政木地域振興課長】出展団体や来賓用の駐車場は設ける必要があると考えていますが、敷地の広さの制約から、一般の来場者の駐車場の確保は難しいと思っています。交通利便性の確保のために、昨年同様、シャトルバスを運行することで対応したいと考えています。

【久保議員】定額減税について。物価高対策として、6月から定額減税を実施している。納税者本人と同一生計配偶者、扶養親族について、一人につき所得税が3万円、住民税が1万円控除されるが、横浜市として

関わるのは住民税の部分。自分が対象になるかという問合せなどが来ていると思うが、窓口ではどのように対応しているか確認したい。

【小野税務課長】6月3日に市民税の納税通知書を発送したことに伴い、様々な問合せをいただいているところです。電話や窓口で、自分が定額減税の対象になっているのか、なっている場合は、扶養親族等も含めていくら控除されるのかという問合せが多くなっています。ご本人確認のうえ、控除の金額や時期をお答えしています。

【久保議員】市のホームページにも情報を掲載しているほか、ご案内のチラシを配布していると財政局から聞いている。このチラシは区役所でも配布しているのか。

【小野税務課長】財政局で作成したご案内のチラシをカウンターなどでお配りしています。最近インターネットで情報収集される方も多いため、区役所で独自に説明動画を作成し、市の公式YouTubeで公開しています。動画のリンクは瀬谷区のホームページに掲載しています。

【久保議員】市民の負担軽減のために定額減税を行っているが、制度の内容等が分かりにくいところもあるので、市民の皆様が減税の効果を実感いただけるような取組をぜひ行ってほしい。

次に、瀬谷区の火災・救急状況について。令和5年は、前年と比較して火災件数が2倍になっており、焼損面積や火災による死者が増えている。火災の被害により住むところを失った方の行き先の問題など様々な課題があると思うが、対応は十分にできているか。

【相馬瀬谷消防署副署長】令和5年は区内でも2名の方が火災によって亡くなっており、令和4年に比べて、火災件数が増えたというのは事実です。大規模な火災が発生した場合には、避難場所への避難が必要になることもあるので、区役所と連携しながら対応していきます。

【久保議員】家を焼失された方が行き先に困っているという話も聞くので、行政にできることは着実に進めてほしい。

会議資料の3ページの「災害等対策事業」について。地域防災拠点回っていると、能登半島地震を受けて、区民の防災意識が非常に高くなっているのを実感する。以前の会議で、地域防災拠点の防災備蓄庫が狭小であるという区民の声を伝えたが、その後の対応について確認したい。

【松田総務課長】実際に、地域防災拠点から備蓄庫が狭小であるというご意見をいただいております。区役所としても、保管する備蓄品の精査を行

っているところです。また、今年度総務局で、地域防災拠点の機能強化を目的として、標準面積に満たない防災備蓄庫を設置している地域防災拠点に対し、約5㎡の簡易倉庫を増設する予算が計上されています。瀬谷区では、標準面積に満たない防災備蓄庫を設置している拠点が、瀬谷中学校、大門小学校、相沢小学校の3か所となりますが、そのうち瀬谷中学校と大門小学校については校舎の建て替えが決定しているため、簡易倉庫の設置対象としては相沢小学校1か所ということになります。

【久保議員】他にも、三ツ境小学校や阿久和小学校などからも、備蓄庫の拡充についての要望をいただいている。局の事業を進めていくことは必要だが、現場の声を聞き、他の拠点のニーズについても局に伝えてもらうことで、様々な施策に生かして行ってほしい。この点についてはどうか。

【松田総務課長】各地域防災拠点で工夫を凝らしながら、備蓄庫の限られたスペースで整理を進めていただいていると聞いています。区役所としても、段ボールベッドの一部を方面別の備蓄庫に移したり、感染症対策の機材を少し整理したりするといったことを検討していきたいと思います。他の拠点でも防災備蓄庫が狭いという声が上がっていることは、総務局に伝えていきながら、より適切な備蓄庫の運営につなげられるよう考えていきます。

【久保議員】あわせて、防災には自助が重要であるということを市民に認識していただく必要があるので、啓発も進めて行ってほしい。また、災害関係でもう一点、災害時のペット対策について。総務局などから話を聞いても、ペットの避難のあり方については、非常に課題が多いと認識している。現時点では、同行避難があった場合、地域防災拠点が指定した場所でペットに過ごしてもらうことになるかと思うが、区民からの声や現在の課題などを確認したい。

【坂井生活衛生課長】地域防災拠点におけるペット同行避難への対応としては、まずペットの一時飼育場所を決めていただくことが必要です。瀬谷区では、横浜市全体の割合と比較すると、一時飼育場所を設定していただいている地域防災拠点が多くなっていますが、施設の条件等により一時飼育場所の設定そのものが難しい拠点や、一時飼育場所は設定したけれど運用ルール作りがこれから必要な拠点など、状況は様々です。生活衛生課としては、一時飼育場所の設定やルール作りにあたっての助

言、拠点訓練での説明などにより、支援に取り組んでいきたいと考えています。

【久保議員】 ペットを飼っている方は、ペットを家族のように思っているという話も聞くが、地域防災拠点のスペースの問題もあるので、自助という観点から飼い主の方の備えについても理解していただく必要がある。広報や啓発活動は行っているか。

【坂井生活衛生課長】 地域防災拠点での取組に加え、飼い主の方が災害に備えていただくことも重要と考えております。広報よこはまに啓発記事を掲載したり、区役所窓口及び動物病院で、災害時ペット対策のパンフレットや「ペットと飼い主さんの安心手帳」を配布したりして、災害への備えについてお伝えしているところです。引き続き様々な媒体を活用して、飼い主の方への啓発も進めていきたいと考えています。

【久保議員】 次に、26 ページの「地域包括ケア推進事業」について。瀬谷区には公営住宅が多くあるが、建築局や、区の高齢・障害支援課、生活支援課などに話を聞くと、高齢化による課題も増えてきていると感じている。例えば、高齢者の孤独死が多いこと。昨年末に上瀬谷住宅でも数件あったと聞いている。公営住宅における見守りなど、孤立化を防ぐ取組が重要になってきているが、現状の取組や課題について伺いたい。

【木村福祉保健センター長】 高齢化が進むなかで、瀬谷区では独居世帯の割合も高くなってきています。区内の大規模公営住宅である、県営細谷戸ハイツ、県営阿久和団地、市営南台ハイツの3か所では、LSA 事業で生活援助員を派遣して、高齢者の見守りを実施しています。登録された高齢者の見守り以外にも、団地内に拠点を置いているという利点を生かして、住民からの相談対応や、新規入居者の訪問など幅広くアンテナを張って活動しています。LSA による見守りについては、区役所や地域ケアプラザとも連携体制を構築しているので、緊急時にはお互いに協力して対応します。それ以外にも、LSA を派遣していない団地もありますので、民生委員による一人暮らしの高齢者の見守り活動のほか、ボランティア団体による配食サービス、地域のサークル活動、新聞販売店や電気ガス事業者にご協力いただいで実施している孤立予防対策事業など、様々な取組を進めながら、見守りの輪を広げていきたいと考えています。

【久保議員】 民生委員や、新聞配達の方、電気事業者など、地域の方々も含めて見守りを行っているということで承知したが、現在、認知症の

方も多いように感じる。区民からも、認知症の疑いのある方に関するご相談が多くなっている。入居者の安否確認はもちろん、認知症を疑われる症状のある方の様子に変化がないか、ということは、LSAによる見守りも含め、さらに手厚くしていく必要があると思う。地域の自治会町内会も高齢化しており、民生委員も含めて担い手不足が課題となっている。認知症による徘徊や近隣とのトラブルなど、地域で解決するのが難しく、警察や行政にも相談しにくいケースについては、どのような解決方法が考えられるか。

【佐藤高齢・障害支援課長】地域の方が気にしてくださっている認知症の方は多くいらっしゃるかと思います。まずはご本人や家族と丁寧に話して、介護保険のサービスや医療に結び付けていくことが重要だと考えています。サービスや治療がご本人の意向に合わない場合、対応に時間がかかることもあります。地域ケアプラザとも連携、調整しながら進めていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

【久保議員】口で言うのは簡単でも、実際には大変なところがあると理解している。とは言え、認知症は早期発見、早期治療が重要なので、行政としても早めの対応につなげられるように後押しをお願いしたい。28ページの「多文化共生事業」について。昨年度、瀬谷区にお住まいの外国人に対して、初めてアンケート調査を行ったと聞いている。瀬谷区は住みやすい、住み続けたいという回答が多かったようで、日本での生活、瀬谷での生活に満足してくださっていることは好ましく思う。一方で、地域住民との関わりについては消極的な部分があるという結果もあった。瀬谷区ではベトナムの方が一番多く、続いて中国、フィリピンなどの方が住んでいる。アンケート結果を踏まえ、どのような取組を進めていくのか伺いたい。

【政木地域振興課長】アンケート結果を受け、多言語での生活情報リーフレットの発行を計画しています。現時点では、やさしい日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語のリーフレットのデータを区のホームページに掲載し、そのページに繋がる二次元コードを外国人の方に配布する想定です。もう一点、今年度よりいきいき区民活動支援補助金にテーマ型支援部門を設け、多文化共生と居場所づくりに取り組む団体への支援を開始しました。団体の伴走支援をしながら、居場所づくりを進めていきたいと思っています。

【久保議員】国際交流ラウンジの設置について区提案で要望していたが、その後どうなったか。

【植木区長】国際交流ラウンジについては、国際局で検討中と聞いています。現在、区としては特に進捗がない状況だと認識しています。

【久保議員】外国人の方は多くいらっしゃるので、区として提案をしつつ、引き続きその他の取組も進めてほしい。

最後に、窓口サービスの向上という観点で伺いたい。今年1月30日に、瀬谷区と鶴見区でおくやみ窓口がモデル設置された。自分も窓口を訪れるなどしてみたが、直近の状況について確認したい。

【松田総務課長】利用された方からは、手続きの分かりやすさを評価するご意見や、不安な気持ちに寄り添ってもらえて安心した、利用してよかったというような声を多くいただいています。一方で、実施する側としては、おくやみ窓口を利用された方は、手続きのために各階の窓口を回っていただく必要があるため、他にお待ちになっているお客様もいらっしゃるなかで、できる限り待ち時間を短くするような工夫が必要です。モデル区として、運営上の課題を十分に把握し、よりよいおくやみ窓口となるよう進めていきたいと思えます。

【久保議員】DX化により、最終的には「待たない窓口」ということになるのかもしれないが、現在は対面で手続きが必要な部分もある。ご家族が亡くなり、心が晴れない、故人を偲びたいという時間のなかで、手続きのためにたらい回しにされたり、長時間待たされたりすることが問題であると思う。課題は多いかと思うが、全区展開に向け、ぜひモデル区の瀬谷区から頑張してほしい。

【花上議員】能登半島地震以来、防災について市民の方から様々な意見を聞いており、災害に対する備えは市政としても重要な取組だと改めて感じている。自助・共助・公助のなかで、まず自助という点においては、自らの命や家庭は自分たちで守ることが基本的な考え方である。各ご家庭では、災害に対する備えや準備をどれほど行っているのか、瀬谷区の実態について聞かせてほしい。

【松田総務課長】昨年度実施した区民意識調査によると、水の備蓄は進んできている一方、トイレパックの備蓄をしている方は、まだ割合としては十分でないと思っています。ただ以前よりは割合が上がっているという印象があります。引き続き、区としても備蓄の重要性を啓発してい

きたいと考えています。

【花上議員】トイレパックもそうだが、飲料水や食料など、発災直後の段階で命をつなぐための基本的な備蓄品を用意しておく必要がある。自分も、いざという時の持ち出し品を準備している。そのような自助努力について、地域での状況はどうか。

【松田総務課長】地域防災拠点の訓練でお聞きすると、参加者の皆様は防災に対する意識が高い方でもありますので、多くの方が災害時に備えて準備をしているようです。しかし、訓練に参加されない、そこまで意識が向いていない方に対して、着実に啓発をしていく必要があると思っています。昨年度、子どもとその保護者を対象とした啓発として、「ザ・リモート」という動画を用いたリモート訓練を実施しました。年少期からしっかり防災意識を持っていただくための取組も重要だと考え、現在、区として取り組んでいるところです。

【花上議員】区役所として、区民の皆様に日頃から準備を整えておいていただくような取組は必要だと思っている。考えを聞かせてほしい。

【植木区長】今回の能登半島地震で、食料や飲料水が必要であること、下水が使えなくなることがあること、また、高齢者の方をはじめ、ご自身の持病等への備えが必要であることが報道されています。区から被災地派遣に行った職員からも、そのあたりの重要性は聞いていますが、先程お示しした区民意識調査によると、実態として、飲料水等に関しては、まったく備えていないという方がまだ1割程度いらっしゃいます。飲料水の備蓄をしていない方が13%、食料の備蓄をしていない方が14%です。トイレパックに関しては、44%の方が全く備蓄をしていない状況です。徐々に備蓄している方の割合は上がってきてはいますが、何かあったときに、地域防災拠点に行くだけではなく、行かなくてもある程度、在宅避難で耐えられるような準備をしていただくことをお願いしていかざるを得ないだろうと思っています。持ち出し用の備蓄品を準備しておくことや、普段から食料を少し多めに保管しておくローリングストックの手法などを、引き続き広報していきたいと考えています。

【花上議員】災害時、地域防災拠点に避難すれば全て整っていると考えている方がいらっしゃることは事実。しかし、いざ災害が起きたときには、公的な避難場所に全て依存することもできないので、きちんと自助努力をしていただけるようなPRや啓発が必要だと思う。ぜひ、しっかり

と取り組んでほしい。

最近では、地域力が低下しているという話をよく耳にする。新型コロナウイルス感染症の流行により、地域の集まりや組織的な活動が非常に弱まっていると。さらに、高齢化により地域の役員等の担い手もなかなかいない。高齢者が増えているにも関わらず、老人クラブの会員さえ減っているような状況で、非常に心配している。横浜市では、市と区の連合町内会の会議があり、そこで議論した内容が単位自治会に共有されていくという構造だが、連合町内会の会議などで、地域力の低下や担い手不足に関する話は出ているか。

【植木区長】瀬谷区については、自治会町内会の加入率が市域のなかでは高いほうですが、徐々に減少傾向にあるというのが実態です。様々な委員の推薦を町内会にお願いすることがありますが、担っていただける方を探すのに、会長の皆様が苦勞されているとお聞きしています。市全体で、どのように自治会町内会の皆様の負担軽減を図っていけるか検討を進めているところです。

【花上議員】自助・共助・公助という防災の観点からも、地域の支援は必要だと思うので、今後も取組を進めてほしい。

現在、消防団の充足率はどのくらいなのか、消防署に聞きたい。

【相馬瀬谷消防署副署長】瀬谷消防団は定数が310名のところ、6月1日現在で286名が入団しており、充足率は92.3%となっています。充足率を上げるために、消防団と消防署で協力し、広報よこはまや、イベントでの広報を行っています。様々な媒体を通じて充足率を向上させながら、大規模な災害があったときには連携して対応していきたいと思い、取組を進めているところです。

【花上議員】次に、市民の健康について。瀬谷区民の健康を守るための、診療所や病院などの医療体制は、総合的に見てどのような状況か。認識を聞かせてほしい。

【植木区長】瀬谷区には多くの病院、クリニックがあります。ただ、区のなかだけで考える問題ではないと思っています。横浜市は、地域中核病院を中心とした7つのブロックに分かれています。瀬谷区が属している西部地域には、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院があり、地域の病院と役割分担をしています。区の医師会、歯科医師会、薬剤師会とも連携体制をとり、区民の皆様の健康を守っていきます。

【瀬戸福祉保健課長】医師会、歯科医師会、薬剤師会の三師会とは、年に1回は、各師会との連絡会を設け、直近の状況や課題について意見交換をしています。その他に、昨年度から今年度にかけて、歯科医師会や薬剤師会からも能登半島の被災地派遣に行っていたということで、被災地の状況についても、災害医療の観点からお話を聞かせていただきました。さらには災害医療について医療機関とロールプレイを行うなど、様々なチャンネルでコミュニケーションをとり、意見交換をさせていただいているところです。

【花上議員】区役所として、区内全体を見渡して、区民の命と健康を守るための取組を三師会とも連携、調整しながら、しっかりと進めてほしい。

次に、防犯について聞きたい。いよいよGREEN×EXPOの準備が本格的に始まり、区内に現場事務所もできると聞いている。今後は、より多くの方が仕事で瀬谷区に訪れることになる。不特定多数の人が出入りするようになることで、それに乘じた犯罪の発生を懸念している。一元的には瀬谷警察署の役割だと思うが、地域をあげて防犯に取り組む必要がある。区としての認識を聞かせてほしい。

【植木区長】地域の安全を守るためには、地域の方がいつもと様子が違うと感じたときに、その違和感を警察署や区役所に知らせていただけるようなネットワーク作りが必要だと思っています。通学路の見守り隊の方も含めて、身の回りで違和感があったときに気づいていただけるよう、啓発をしていきたいと思います。

【花上議員】防犯については地域をあげて取り組む必要があるので、区役所と関係機関で連携し、学校をはじめ、様々な場所の防犯対策を進めてほしい。特に瀬谷警察署とは、強固に連携しつつ防犯体制を整えていくことが必要と考えるが、瀬谷警察署との関係はどうか。

【植木区長】瀬谷警察署とは場所的に近いということもあり、様々な案件でご相談をさせていただいています。GREEN×EXPOに向けて、これから瀬谷区を訪れる方が増えることも踏まえ、年に一度、テロ対策訓練を実施しています。昨年度も、区役所と瀬谷警察署、瀬谷消防署で協力して実施しており、しっかりと連携はとれてきていると認識しています。

【花上議員】瀬谷警察署で統計をとっている区内の犯罪発生状況について、区役所として情報を得ているか。

【植木区長】毎月の区連会の定例会で、瀬谷警察署から、交通事故や犯罪の件数、直近で増加傾向にある犯罪の内容などを説明いただいています。区連会から、各地区連合町内会にも共有いただいていると認識しています。

【花上議員】次に、高齢化が進むなかで、高齢者が車の免許証を返納し、外出の機会が少なくなってしまうという話を聞く。健康のことを考えると、車の免許を返納しても、外出できるような機会を作っていく必要があるのではないかと思う。国も横浜市も、最近はず育て支援に注力しているように見えるのか、年配の方からは「我々の年代のことをあまり考えてくれないのではないか」という声も聞こえてくる。そのような背景の中で、行政の取組として、山中市長が公約としている、75歳以上の敬老特別乗車証の無料化については、有効な政策であり非常に期待しているところだが、地域交通の課題も含め、区役所においても高齢者が外出する手助けをしていかなければならないと考えている。まずは、高齢者の居場所づくり。認知症になる原因の一つは、人と会って話をしなくなることと言われているが、その点はどうか。

【木村福祉保健センター長】高齢者が地域で孤立化してしまうと、人と話す機会がなくなるので、認知症予防の観点からも、地域のつながりを作ることは非常に重要だと思っています。

【花上議員】その通りだと思う。地域の方々と区役所で協力し、高齢者の居場所を作っていくという具体的な取組はあるのか。

【佐藤高齢・障害支援課長】高齢者が、可能な限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、地域包括ケアを推進しています。高齢者が地域のなかで活躍できる場を作ること、また、老人クラブでのサロン活動や見守り活動を通してコミュニケーションをとり、地域での関係性を保ちながら暮らしていけるように進めています。さらに、地域ケアプラザや町内会館で体操やウォーキングを実施し、地域の力を生かした形での介護予防事業にも取り組んでいます。

【花上議員】今の話にもあった見守り活動は非常に大切だと思っている。自治会町内会で熱心に見守りに取り組んでいる地域はあるが、全体としてはまだ足りていないところもある。地震等の災害が発生したときにも地域住民の連携がとれるような、日頃からの関係づくりが重要だと考えているが、瀬谷区でも取組は進んでいるか。

【松田総務課長】災害時に高齢者や要援護者に必要な支援ができるよう、顔の見える関係づくりを進めていくことが重要だと考えています。区役所でも、啓発のリーフレットを作成して配布したり、地域防災拠点の訓練などを通じて、顔の見える関係づくりを進めたりしているところ です。

【花上議員】GREEN×EXPOについて聞きたい。機運醸成の取組が全市的に始まっているが、三ツ境駅や瀬谷駅の駅前のスペースを活用して花を植えていく活動を計画していくべきだと思う。瀬谷西高校の卒業生の皆様が、海軍道路の花壇に花を植える活動をしてくださったが、以前は瀬谷駅北口駅前広場でも、大きな花壇を作って花を植えたことがあったと思う。今後、同様の取組を行うことで、GREEN×EXPOを盛り上げていこうという考えはあるか。

【植木区長】区制50周年のときに瀬谷駅北口駅前広場に大花壇を作っていたので、区民の方から、また実施しないのかというご意見をいただくことがあります。北口広場では、機運醸成の一環として、9月に輝きフェスティバルを実施しますので、現時点で、花壇を作って固定のスペースをとってしまうと、イベントとの両立が難しくなる可能性があります。大きい花壇を作る形で機運醸成を進めていくのか、地域の方が集える場所を残しながら進めていくのが良いか、検討したいと思います。ただ、今年度の予算では、瀬谷駅に大規模な花壇を復活させることは難しいと考えております。

【花上議員】駅前などの様々な公共用地に花を植えていく活動が増えれば、それを目にする区民の皆様にも、GREEN×EXPOの開催が契機とあって、このような活動が拡大していることが分かっていただけだと思う。瀬谷駅北口駅前広場だけでなく、区の全体を見ながら、区民が花と緑を楽しめるような取組を実施してほしい。三ツ境駅の駅前広場においても、南口を出て左側には、横濱花博連絡協議会が相模鉄道と協力して花壇を作っているが、反対側には何も植えられていない。三ツ境駅利用者の方からも、左側は花がきれいで目を楽しませてくれるが、反対側には何もなくて寂しいので花壇を作るべきだという声がある。自分も同感だが、区づくり推進費で花壇を作り、花を植えることは考えられるか。

【植木区長】三ツ境駅のペDESTリアンデッキの突き当たりは、区役所が施設と協定を結んで花壇を作っています。右側が寂しいという区民の

方からのご意見があることは承知しましたので、今後、何ができるか検討させていただければと思います。

【花上議員】正面は確かに区役所が花壇を作っていたが、相模鉄道とも協議し、なるべく早く右側にも花壇を作っていただくようお願いしたい。最後に、GREEN×EXPO の名称について。「GREEN×EXPO 2027」、「国際園芸博覧会」、「園芸博」、「花博」など呼び方がいくつかあり、以前から統一したほうが良いという意見が出ていた。まもなく開催まで残り 1000 日という状況にも関わらず、名称が複数あることは好ましくない。1990 年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」は、誰もが「大阪花博」と呼んでいたが、今回の GREEN×EXPO については、まだ呼び方にばらつきがあり、統一していく必要がある。この点についてどうか。

【植木区長】区役所で事業を展開するときには、基本的に「GREEN×EXPO 2027」と表記していますが、話すときには、つい「花博」と言うこともあります。市としては「GREEN×EXPO 2027」という名称で揃えているので、区としても統一していきたいと思います。

【花上議員】大阪花博は大規模な花のイベントというイメージがあったが、今回の国際園芸博覧会は、人類の将来に向けて、環境に関する強いメッセージを横浜から発していく、崇高な精神を持った国際イベントであると聞いている。「GREEN×EXPO 2027」という名称にまとめることで、今回のイベントの考え方を、横浜市のみならず、全国、世界に広げていくつもりで取り組む必要がある。常任委員会でも引き続き提言しようと思っているが、区役所でも様々な名称を使うのではなく、局と連携しながら、統一したネーミングで発信していくことをお願いしたい。

【植木区長】事業名はすでに一律で「GREEN×EXPO 2027」としています。新しい局名も「GREEN×EXPO」と表記されているので、市としても今後統一されていくと考えています。

【花上議員】よろしくお願ひしたい。今日ここに集まっている各課の職員は、区民にとって非常に頼もしい存在。山中市長が言っている、市民の役に立つ、市民の役に立つ市政を、区の職員も意識しながら仕事をしていると思う。約 12 万 1000 人の瀬谷区民が、瀬谷区役所を一番身近な役所ということで頼りにしている。各課にも多くの区民が来て、悩みや苦しみを相談しているかと思うが、区民に親切で、役に立つ頼もしい区役所となるよう、今後も植木区長を先頭に運営していただくよう期待し

	<p>ている。</p> <p>【川口議員】瀬谷土木事務所の事業について、一点質問したい。三ツ境歩道橋の補修について、事業の開始時期と、範囲について教えてほしい。</p> <p>【富永土木事務所長】三ツ境歩道橋の補修については令和5年度から3か年で全体を補修する計画で、昨年度は相模鉄道の線路の北側の補修工事を実施したところ。今年の5月までかかりました。今年度は、秋口から線路の南側の範囲で工事を予定しており、年度内で終える計画です。区役所に来庁される方も通る場所ですので、事前に区連会定例会などで説明しながら工事を進めていきたいと考えています。9月頃に事業者が決まって情報を出せると思うので、随時区民の方に広報していきます。</p> <p>【久保議員】河川整備に関する事業で、阿久和川の改修工事の進捗状況を聞きたい。もう一点、今年度、阿久和川の遊水地の管理用通路を地域に開放すると聞いたが、こちらに進捗を確認したい。</p> <p>【氏家土木事務所副所長】阿久和川の河川改修事業については、現在、阿久和三の橋の直近、上流側の工事を進めています。下流から上流に向けて段階的に事業を進めているところです。河道浚渫は、阿久和三の橋の下流側にある、河道及び遊水地の浚渫工事を進める事業です。遊水地の周辺には管理用の通路がありますが、令和6年度末の一般の方の通行開始を目指し、周辺住宅の方にご理解を得られるよう調整を進めているところです。</p> <p><その他報告案件></p> <p>【松田総務課長】寄附受納の報告をさせていただきます。先生方も、贈呈式にご参列いただきありがとうございました。3月19日に、横浜瀬谷ライオンズクラブ様より、書家の金澤翔子様から揮毫された書画2点を受納しました。本件については、令和6年第2回市会定例会常任委員会において報告をしております。書画は現在、区役所3階の総務課の前に展示させていただいています。</p>
備 考	